

フィリピンカオハガン島研修報告書

今回この研修に参加してみたいと思った動機は、大きく3つあります。1つ目は、日本から出たことがなかったので、海外に行ってみたいということ。2つ目に、島主の「崎山さん」に興味を持ったこと。3つ目が、日本との生活の仕方の違いについて知りたいと思い参加を希望しました。

「蒸し暑い」セブ島に着き、空港から出たときの素直に思いました。こんな気候の中で約1週間生活するのかなと思うと、大変だとは思っていませんでした。ですが、船で移動して、カオハガン島に着くと、海風が吹いていて心地よく一安心。1日目はほとんどが移動時間で終わってしまいました。

2日目は、朝日が昇りカオハガン島の全貌が確認できて、とても感動したことを覚えています。自分のロッジの窓からの眺めは、すぐに海が見え、島民が沖に出て漁をしている姿が非日常の光景に見え心にしみ込んだのです。前日は、暗くてなにも確認できなかったので、崎山さんがお書きになった本で読んだことを想像していました。ですが、想像をはるかに超えていました。2日目の主な活動内容は、島主の崎山さんのお話と島見学、ビサヤ語についてなどでした。まず最初にこの島は、崎山さんの退職金ほとんどをかけて購入したそうです。奥さんにもこの事について相談したそうなのですが、すぐに「買ってもいいよ」という承諾をもらい、島を購入したそうです。このことを聞き、なかなか一般人にはできないことをする人だなと感じました。崎山さんは、この島を購入する前までは、会社に勤めていて、雑誌の取材や自分の記事の掲載、編集などをしていました。日本だけではなく、海外でもかなり長い間同じ仕事を続けていたそうです。そして、カオハガン島購入時には、島民350人がこの島で生活していたそうです。そこから、崎山さんは会社で勤務していた際得た知識を活用して島民たちの生活を良くしようと、様々なことをしていたそうです。例えば、ちゃんとしたトイレを設営したり、小学校を設立させ、子供たちに教育を受けさせたり、雨水を確保する方法を考えたり、様々な手をこの島に加えていったそうです。お話を聞いている際にとっても印象的で一番心に残っていることがありました。崎山さんが本で目にした。「土地というものはあくまでもその人のものではなく一時的にカミサマからかかしていただいているものということ」です。この借りた土地をどれだけ良くしてカミサマにかえすのが大切なことだとおっしゃっていました。このことは深い話だなと思い、色々今日本のことや世界の悲しい出来事が頭に浮かびました。このような違った視点で物事を見ることが出来る崎山さんはとても尊敬させられます。そして、こんな話もしていただきました。カオハガン島の人の給料は、全世界の最貧国の給料の半分しかもらっていないということです。最貧国の給料は約9,500円。カオハガン島の人の給料は半分なので約4,750円。日本でこのお金だけで1ヶ月生活することはほぼ不可能なことです。なのになぜここまで少ないお金で、なに不自由ない生活や幸せそうな笑みを浮かべて生活できているのか不思議でたまりません。その答えは、とてもシンプルンもので、島

民たちが島に感謝して生活しているのがキーワードでした。島民たちは、決して漁をする時などに捕りすぎたりしないで、自分たちが必要とする最低限度の量しか捕らないそうです。その他にも、島民たちの生活スタイルは、人間の生活スタイルにこの島を合わせて生活するのではなく、この島や自然に人間が合わせて、生活スタイルを変化させて生活することでここまで豊かな島になっていっているのだと感ずることができました。自然にあらがわずに共生しながら生活することが大切だと気付かされました。このことが何もないのに豊かに暮らしている鍵になっているのだと感ずました。これらの考えは、決して日本で生活していたら、味わうことがない環境であり、このようなまったく違う環境に来たからこそ感ずられるものだと強く思います。崎山さんのお話のあとには、島を見学してきたのですが、子供たちの笑顔がすごく輝いていましたし、無邪気に遊んでいて、とてもいいなと思うほのぼのする光景が広がっていました。見学の際に、コリコリした触感が特徴的な「サルポ」というお酒のおつまみ的存在のものをいただいたのですが、日本でいうたこを食べている感覚に似ていて、それに海のしょっぱさがプラスされていた味でした。他にも、コンクリートでしっかりと作られたバスケットコートもあり、コンサート会場のようなものまであり、村の中は充実していました。その後、ビーチまで行ったのですが、とてもきれいで、写真を撮る何枚も何枚も撮っていたり、すぐさま空のように青い海に入っていました。絶対に自由時間の際に泳ごうと心の中で思っていたのでした。2日目は初めてのことばかりですぐに過ぎ去ってしまっていました。

3日目の主な活動内容は、島の小学校で将来の夢についての絵を描いてもらうことがテーマです。前日にしっかりと準備してきたのでスムーズに進行することができました。子ども達もノリが良く、「描いていいよ」と言うと、すぐさま、クレヨンを走らせ、すぐに様々な絵でシートが埋め尽くされていました。その後、どんな夢を持っているかと子どもたちに聞くと、恥ずかしながらも前に出てきて、ティイチャー、ナース、ポリス、フッシャーマンなどなど様々な夢が出てきました。その後、昼食をいただいた後に、先ほどの学年より1つ大きい学年を対象に同じテーマ絵を描いてもらいました。自分が驚いたのは、1つ年齢がちがうだけで描く絵のクオリティーが全然違ったこと。花の絵を描くにしても、細かな湾曲や花の形がそっくりでした。この企画に対して、子どもたちが笑顔でいっぱいになっていたのも、自分の中では成功だったのではないかと思っています。こうして、3日目は小学生に囲まれながらあっという間に終わってしまいました。

4日目の主な活動内容は、自由時間と珊瑚礁保護区を観察しに行くことでした。カオハガン島の周りの海は、1日に2回潮が引きます。その時に島民達が海に出て、貝を拾ったりします。もちろん、歩いていくわけですから、珊瑚を踏んでいきます。この行為が何十年と続いてきたので、カオハガン島の周りの珊瑚は破壊されてきてしまったと崎山さんは言います。そのため島には、300m×1200mの珊瑚礁保護区があり、24時間体制でそこに船が入ってこないかなど監視しているそうです。船はすぐに、珊瑚の保護区に到着し、初めてのシュノーケリングで大量に海水を飲みました。海の中は、珊瑚をはじめ様々な大小

大ききの違う魚たちがたくさん泳いでいました。大きな珊瑚もあり、ここまで成長するのに何十年、何百年かかったのだらうと思っていました。他にも、大きなしゃこ貝がいました。直径約1mあり、管みたいところから海水を出し入れしているのが観察でき、少し刺激してみると、あの大きな体には似合わないスピードで縮こまったり、貝を閉じようとしていました。このような体験は、初めてなことばかりなので、すごく興味津々になりますし、興奮していました。シュノーケリングの時間はあっという間に終わり、その後、自由な時間をおのおの過ごしていました。自分は、島の人たちと会話をしてきたのですが、子どもの笑顔も素敵なのですが、大人たちの笑顔もすごく自然なもので、ずっと笑話ばかりを繰り広げていました。このようなことをしていると4日目も終わってしまいました。

5日目の活動内容は、ホームステイです。一番心配していたホームステイでしたが、一番この研修の中で楽しい思い出になりました。自分は、サダムさん宅にお世話になったのですが、子どもが5人もいて、7人家族でした。日本では、考えられないほど子どもが多かったです。フィリピンでは、1家族に子どもが4~5人いることが、一般的だそうです。自分は、ずっと2歳の男の子 **Zhian** と4歳の男の子 **Frances** と遊んでいました。日本から持ってきた鳴子を渡すと「カチャカチャ」と音をたてて遊んでいたりと、鳴子をラケット代わりにして、ボールを打ったりしていました。一緒に生活してみると日本とは全然違い、時間が進むのが遅く感じられたり、笑顔がたくさんある生活だなと感じました。本当に、スローライフですし、ストレスのない生活でした。その後、海に出てみたり、バスケットを試みたり、島を一周してみたり、様々な体験を子どもたちとしてきました。その中で、こんなことを聞いてみました。「このカオハガン島から出てみたい？」と聞くと、「NO」と言われました。この島で生まれ育って、この島にずっといたいのだという気持ちが伝わって来ました。ホームステイの時間もあっという間に過ぎ、夕食に、お別れパーティーを開いてくださいました。初豚の丸焼きを目にして、豚に申し訳ないなと言う気持ちになりました。みんなで歌を歌ったり、踊ってみたりと楽しい時間を過ごし、研修が幕を閉じました。

カオハガン島で感じたことは、「便利」すぎるということは逆に、自分の首を絞めているのではないかと思います。そして、自分の才能や能力にまで害をもたらせているのではないか。自分が最高に出せるパフォーマンスにまでふたをしてしまっているのではないか。など、便利なことは良いのですが、便利すぎるということは逆に人間にとって害なのではないかという思いがこの研修を通して感じたことです。決して便利な日本では思い浮かばないことをいつもとは違う生活を行ったから気づけたことでした。また、「幸せに暮らす」ということは、どういうことなのか。人それぞれ考え方が違いますから、便利な生活をするのが幸せだったり、好きな人と一緒に暮らすのが幸せだったり、様々な解釈ができますが、自分なりに考え出した答えは、とても単純ですが、一番の幸せは「みんなで食卓をかこみみんなでご飯を食べて、日々を生活すること」ではないかこの研修を通して、感じることができました。決して、非現実的なことをするのではなく、毎日日常で行っていることを大切な家族と行うことが幸せなのだと思います。毎日行っていることだからこそ見

つけることが難しいですが、このことに気づいて生活するのと、しないのでは、生活の質(QOL)が違ってくる。このことに再度気づかせてくれたことにととても感謝しています。また、崎山さんをはじめとするスタッフの皆様、島民の方々、一緒に参加した学生の皆さん、先生方ありがとうございました。また、この経験を周りの人たちに還元できるようにこれからの活動に力を入れていきます。ありがとうございました。



